

ギリシヤは大きな国

みんな輝くような美女に

九里祭展示 8/28・29

図書館だより

九里学園高等学校
図書委員会
印刷 (株)川島印刷
TEL 21-5511 (代)



今年の展示は、オリンピックが開かれたギリシヤという国にこだわりました。小さな国から雄大なヨーロッパの歴史へのつながりが見えました。

今年の九里祭は、オリンピックがギリシヤのアテネで行われたことからギリシヤという国にこだわってみようということになりました。

今年、テーマの決定がいつもより遅かったため、夏休みに入ってから製作でした。係は、立体展示、歴史年表、オリンピックの始まりについて、ギリシヤ神話から生まれた言葉、女神のコスチュームと小物作り、ギリシヤ料理の六つに分かれました。小物作りは、剣、兜、竖琴など、ギリシヤ関係の本を参考に作りました。女神のコスチュームをつくることは大変そうに見えて、実は簡単でした。どんな女子にもびったり合

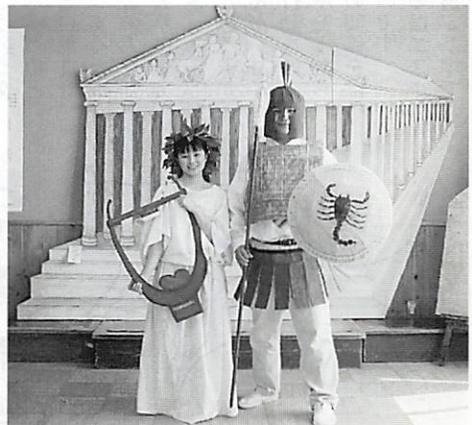
した。

ギリシヤ料理は、本を参考に「ムサカ」「ユーバラキア」「フルーツコンポート」の三品を作り、みんなに食べてもらいました。いずれもおいしいと評判でした。

ギリシヤ神話から生まれた言葉には、「アキレス腱」「サイレン」「エコー」など沢山あり、あらためて神話が人々の生活に深く根づいていることを知りまし

た。夏休みの作業の中で一番大変だったのは立体展示でした。神殿と女神・戦士が描かれたゲートを作ったのですが、神殿は奥ゆきを出すのに何度もやり直し、遠近法という方法でようやく立派な形になりました。

そして今年も卒業した図書委員の先輩方が夏休みを返上して手伝ってくださったお陰で、無事九里祭までに完成させることが出



来ました。

ギリシヤという国は、地図で見ると小さな国ですが、とてもスケールの大きな国であることがわかりました。紀元前の文明の発生、有名なトロイ戦争、哲学が生まれた国、そして直接民主政のはじまりの国でもありました。また、オリンピックもこの国からです。

私達は委員全員でとり組むことよって、ギリシヤという国を立体的にとらえることができましたと思います。

三年生にとって最後の九里祭が終わりました。全力を尽くしましたし、楽しんだし、充実感でいっぱいです。

二年 原 祥江 記



“本を読むことは自分を読むことだ”

新鮮だった馬場先生（米女短大）の話



著 綿矢りな
7月28日

『蹴りたい背中』
三校合同読書会

七月二十八日、本校を会場に、米工、米商、九里の三校で合同の読書会が行われました。今回の読書会では、十九歳で芥川賞を受賞した今話題の『蹴りたい背中』でした。

グループに分かれて話し合いをしていく中で、「殴るのではなく、なぜ背中を蹴りたかったのか」という問いでは「殴るより蹴った方が、どれだけイライラしているのか

が伝わるから」「背中を蹴って間接的に伝える、そこに心の揺れを表したかったのではないかな」など多数の意見が出されました。「その後二人はどうなったと思いますか」という問いでは「別れる」あるいは「そのまま平行線」などの意見が出て各班盛り上ったようです。

最後に、米沢女子短期大学の馬場先生がこの作品について解説をして下さいました。馬場先生のお話しの中で「本を読むことは自分



新鮮で、みんな目と耳をかたむけ聞き入りました。この小説の成り立ちの説明で著者は、学校という、「個」を「孤」に閉じこめさせていく装置の内実を書いているという

指摘があり、驚きました。今回参加者は七十名位でしたが、著者の綿矢さんも私達の年齢に近いし、ストーリーも高校生活の中で経験しているようなことだったのでみんなすんなりと読めたということです。

馬場先生によると、「小説の読み方に正解がない」そうですが、今回の読書会をおおして私は、深く読み取れる自分になりたいと思いました。

極寒の地では犬をペット扱しない

『カナダ・エスキモー』 本多勝一 著

図書委員読書会

6/2

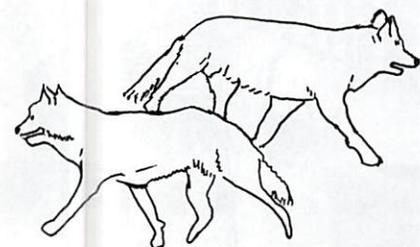
図書委員になって初めての読書会が行われました。本は本多勝一の『カナダ・エスキモー』でした。この本からエスキモーの文化と日本の文化の違いを読みとろうというものでした。

作者がエスキモーの美女からマリリン・モンローまでの写真を見せると、エスキモーの男性から見て美女は、欧米的になるほど不評というのには笑ってしまいました。この本から僕は、日本の基準で、他の国の文化を見てもまうことは大きな間違いであることを知りました。みなさんもこの本を読んでみてから他の国の文化を知ってははどうでしょうか。

二年 神野 恭平 記

三年 遠藤 睦 記

指摘があり、驚きました。今回参加者は七十名位でしたが、著者の綿矢さんも私達の年齢に近いし、ストーリーも高校生活の中で経験しているようなことだったのでみんなすんなりと読めたということです。



(3)

尚綱学院女子高校

毎朝、礼拝の時間がある

図書委員研修旅行

7月9日・10日

今年度の図書委員研修旅行は、宮城県仙台市を訪れました。三校時終了後学校のバスで交流校である尚綱学院女子高等学校へと向いました。尚綱学院は中高一貫教育でキリスト教の教えのもと生徒達は学校生活を送っています。

尚綱学院では毎朝、礼拝の時間があるということでした。図書館内でのパソコンを使った蔵書の検索システムや、図書購入予算の多さに驚かされました。

翌日は市内にある文学館、多賀城の東北歴史博物館、芹沢銚介美術工芸館を見ました。この美術工芸館は東北福祉大のキャンパス内にあり、型染の有名な作品をはじめ、芹沢銚介の技術を受け継ぐ人々の作品が展示されていて、素晴らしいデザインやデフォルメの施された作品に圧倒されました。

「風土」のランチでした。これが「うまかった」です。とくにデザートのマンゴーのプリンは絶妙な美味しさでした。私にとっては最初で最後の図書委員研修旅行でしたが、芹沢銚介美術館と東北歴史博物館は「もう一度訪れてみたい」という思いにかられました。

(三年 縮 佳那子 記)



地区図書委員研修会

於：荒砥高校 9月16日



私の好きな

主人公

『キノの旅』

時雨沢恵一 著

キノは常に客観的

三年五組 渡部 静香

『キノの旅』は、キノが二輪車エルメスに乗って諸国を旅する物語である。キノは拳銃の名手。おまけに自分の事をボクなんて呼ぶものだから女の子だと気付くまで、だいぶ時間がかかってしまった。常に持つべき感情は「どんな状況でも他人より自分を愛する事」を信条として旅を続ける。そんなキノに私は憧れを抱かずには居れない。自由な旅というの羨ましい。弛んでしまいがちな自由も「二国での滞在期間は三日まで」という制限を付ける事で規律が生まれる。決してダラダラ

としないのだ。私はそこまで自分を律する事はできないだろう。更にキノの凄い所は、事件が起き銃を向けられる、追い詰められる、そんな場面で慌てないのだ。事件解決の鍵を握っていても何所吹く風である。極端に言ってしまうばキノは常に客観的なのだ。自分に関した事でさえも。私から見た彼女は「感情」ではなく「思考」で動いているといった感じがする。しかし、そういった直線の中で時折見せる「まあ、いいや」という、いい加減さも私は大好きなのだ。よく、旅は人生に喩えられるが、私はこの本を読みながら自分の将来という国に、キノと一緒に向って行く様な気さえるのだ。

紙芝居の前にアメが配られた

九月十六日に荒砥高校で地区の図書委員研修会が行われました。今回は「読み聞かせ」についてでした。高島高校と長井高校が紙芝居の実演をしました。高島は擬音を入れていました。また、長井は実演の前にアメを配るなど、どちらも大変工夫されているのに驚かされました。その後、菊地先生の講演があり、各自好きな絵本を他校の人達と読み聞かせをみんなでしてみました。やってみると、その場の状況や一人一人の反応を考慮に入れることがいかに大切かがわかりました。今回は自分の将来につながるいい体験をしたと思います。

(二年 榎野 友記)

名著の伝記 <その4>

『史記』 司馬遷

上杉家にあった
宋版の『史記』



今、全国で『スウィングガールズ』が上映されていて評判がいいらしい。この映画は、置賜地区が舞台で、我等高校生が主役となっている。監督の矢口さんが山形を舞台にしたのはなによりも大いなる自然と味のある米沢弁に引かれたからだと言っ



『スウィングガールズ』手伝つ・観る・読む

米沢弁は味がある

ストーリーは、吹奏楽部のかわりをつとめるために緊急募集されて集った仲間たちが練習していく中でジャズに魅せられていく話だ。

私は、その映画づくりにボランティアとして参加したのだが、沢山の発見があった。撮影は今年の夏で、炎天下だった。役者に冷たい麦茶を配ろうとしたら彼らから、「喉を潤すと声が響かないから」とことわられたのだ。また、雪が降るシーンがあったが、夏なので雪を降らすのは不可能

だったが、高いところから大きな扇風機で泡を飛ばしていた。その場面が映画では見事に雪になつていて驚いた。本を読んで、例えば「いぐねえ？」（良くな

い？）等米沢弁のイントネーションまでは伝えられていないと思つた。とりあえず私は、場面を思い出しながら読むのも立体的で、面白い経験だった。
(三年 平山 拓朗記)

中国の歴史物語は、登場する英雄たちが魅力である。それは、最初に歴史を書いた司馬遷の『史記』の形式に習つて後の歴史書『三国志』などは書かれているからだ。
司馬遷は、「国の歴史を」という父の遺志を継いで諸国を旅し、資料にあたり、伝説の時代から始皇帝、項羽、劉邦そして漢の武帝の時代までを人々の息づかいが聞こえてくるように書いていった。この頃、匈奴との戦いで李陵が、敵に亡命するという事件が起きる。司馬遷は、この李陵を弁護したため宮刑（性器を切除される刑）に処される。しかし彼は、獄中でも罪を許されてからも『史記』を書き続け、完成させる。（紀元前九十年）
『史記』が初めて木版印刷されたのが宋の時代である。この宋版の完全本は現中国にはなく、米沢の上杉家にあり、話題になった。国宝で、昭和五十一年上杉家から文化庁に譲渡された。



読書の楽しみ

宮澤賢治から

ごまかしのない生き方を示唆される

豊嶋達也 先生

高一の冬休みに読書感想文の課題が出た時、できるだけ薄いけど有名な本という、今思えば不遜な動機で、『銀河鉄道之夜』（宮澤賢治著）を読んだ。しかし、読み進んでも何を言いたいのかわからず、最後まで読んで、「何だ、夢の中の話か。」位にしか捉えられなかった。時を経て、社会人になってからも一度読んだ時はじめて、この物語の内面の深さを知った。同時に、短いけれどとても美しい文章だと思つた。

これと前後して、当時東京に勤めていた私は、通勤の満員電車の中で、心象スケッチ『春と修羅』を東北の風景を思い浮かべながら読んだ。以来賢治全集は私の愛読書になっている。「決してごまかしのない、ほんとうの道」を進むにはどういう生き方があるか。」というモチーフが彼の作品には流れていて、私はそこに惹かれ、読むたびに違った角度からの示唆を与えられている。

編集後記

途中から編集を引き継ぎ、とまどいながらも原稿を集め、写真選定の仕事をしました。原稿やカットをこころよく書いて下さった方々に感謝です。

とても深い内容になっていますので是非みなさん読んでください。

(三年 竹田 記)

コンピュータが世界中に普及し、デジタルがもてはやされる今日だが、読書には他では換えられない「内面世界を広げ培う働き」があると思う。読書の目的もスタイルも人それぞれ違つていていいと思う。気軽に本に親しむことを通して、自分自身も少しでも成長して行ければと思う。